

平成30年度 後期学校評価報告

南浜中学校

「学校評価」は、学校が教育活動等について目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について評価を行い、これを保護者・地域に公表することで理解と参画を得て「学校」「家庭」「地域」の連携協力による学校づくりを進めることを目的として行います。今回は後期の取組についてお知らせします。

| 1 授業力向上について | | | | | | |
|---|---|----------|----------|---------|--------|--------|
| 重点目標 | 「わかった」という実感をもたせ、学習内容を定着させたり、もっと深く考えたりする主体性を高めるために、日々の授業で、学びが実感できる「振り返り」の指導を工夫します。 | | | | | |
| 手だて | <p>① 学習内容を自覚させる「まとめ」と、定着を図り、深く考えさせる「振り返り」を工夫します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一人1公開授業」をとおした「グループ追究」と、「研修だより」による「学習課題とまとめ」「振り返り」の交流実践と授業開演 <p>② 学力定着を図る家庭学習の指導を工夫します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の学習内容と連動させた家庭学習指導の工夫（SHINKA タイム） | | | | | |
| 評価項目 ・ 判断基準 | <p>ア 生徒アンケートで「普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をしていることが多い」の項目で、肯定的回答をした生徒が80%以上となった学年が</p> <p>A 3つの学年 B 2つの学年 C 1つの学年または0</p> | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>後期評価</td> <td>A</td> <td>1年 100%</td> <td>2年 86%</td> <td>3年 86%</td> </tr> </table> | 後期評価 | A | 1年 100% | 2年 86% | 3年 86% |
| | 後期評価 | A | 1年 100% | 2年 86% | 3年 86% | |
| <p>イ 生徒アンケートで「宿題以外にも自主的に家で勉強している」の項目で、「あてはまる」と回答した生徒が60%以上となった学年が。</p> <p>A 3つの学年 B 2つの学年 C 1つの学年または0</p> | | | | | | |
| 今年度の振り返り | <p>前期評価で、「家庭での自主学習」について課題があったので、後期は以下の2点を重点対策として全教職員で取り組みました。</p> <p>① 授業の最後に行う「振り返り」の内容や質を工夫する。</p> <p>② 帰りの会に続いて行う15分間の「SHINKA タイム」の充実を図る。</p> <p>①について、「振り返り」部分に焦点を当てて授業を公開し合い、研究主任が「研推だより」を発行するなどして授業改善を進めてきました。効果を検証するために、生徒アンケート「振り返りをする事で予習復習など学習を深めることにつながったか」を尋ねました。結果は、肯定的回答が9割強となり、一定の効果が認められました。今後も、一層研究を進めていきます。</p> <p>②について、前期家庭学習の割合が低かった3年生で、SHINKA TIME 時に小集団に分けて指導しました。学習意欲の向上や、達成感・充実感の高まりが見られ、家庭学習の充実へとつながりました。今後は、SHINKA NOTE の点検の工夫など、よい取組を共有しながら効果を高めていきます。</p> | | | | | |

2 自律性と社会性の育成について

| | | |
|----------------------------|---|-------|
| 重点目標 | <p>意見のちがいを超え、望ましい人間関係をつなぐ活動を設定し、社会性を養います。</p> <p>① 自己肯定感、自己有用感につながる言葉かけや支援に努めます。</p> <p>② 生徒会活動や学級会活動を通し、自主的実践的な態度の育成を図ります。</p> <p>③ 生徒同士、先生や地域の方とさわやかな挨拶が交わせる姿を目指します。</p> | |
| 手だて | <p>① 生徒会「絆プロジェクト」のような縦割りの活動を生徒の手で主体的に進められるように、支援と指導を行います。それらの活動の中で、生徒自らが学校の課題に気付き、考え、話し合い、集団を高め合う活動を計画し、実践するよう促します。活動後は振り返りを行い、内容を全体で共有します。</p> <p>② 道徳と総合的な学習の時間の柱に人権教育を据え、自他の尊重の意識を高めます。</p> <p>④ 生徒会の取組の「挨拶運動」を中心に、挨拶の習慣を身に付けさせます。</p> | |
| 評価項目 ・ 判断基準 | <p>ア 縦割り活動を取り入れた活動を前期3回、後期3回以上行い、生徒アンケート「先輩や仲間と関わることをとおして学ぶことがあった」の項目で肯定的評価が</p> <p style="text-align: center;">A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満</p> | |
| | 後期評価 A | 94.7% |
| | <p>イ 人権教育を年間計画に従って実施する。</p> <p style="text-align: center;">A すべて実施 B 一部実施 C 未実施</p> | |
| | 後期評価 A | すべて実施 |
| | <p>ウ 生徒アンケート①「地域の大人と挨拶したり、言葉を交わしたりしている」、②「学校生活で、友達と力を合わせて学習したり、活動したりしている」の2項目の肯定的評価80%以上が</p> <p style="text-align: center;">A 2項目とも B 1項目 C どちらも80%未満</p> | |
| 後期評価 A | ①91.4% ②94.7% | |
| 今年度の振り返り | <p>縦割り活動を多く取り入れることにより、生徒どうしの関わり合いが増え、主体的な話し合いの様子が見られました。一定の成果が得られました。</p> <p>また、地域の方々からの協力を得て、様々な場面で教育活動に関わっていただき、生徒の社会性は徐々に高まってきています。</p> <p>今後は、「挨拶、早寝早起き、朝食、メディアコントロール」など基本的な生活習慣をしっかり身に付けさせること、諸活動の目的を明確にし、生徒の主体的な活動を推進すること、集団への貢献目標を意識させること、などを目指していきます。</p> | |

3 支援教育について

| | | |
|--|--|-------|
| 重点目標 | すべての生徒に優しい学習環境の確立を進めます。 | |
| 手だて | ① 支援、指導にあたっての職員の構えを共有します。「南浜中スタンダード10」を作成し、評価します。 ② 学習に集中しやすい環境づくりをします。 ③ 「南浜中スタンダード10」を中心テーマとした職員研修を実施します。 | |
| 評価項目 ・ 判断基準 | ア 「南浜中スタンダード10」に対する職員の自己評価で肯定的評価が A 80%以上 B 60%以上 C 60%未満 | |
| | 後期評価 A | 91.0% |
| | イ 生徒アンケート「授業に集中できる教室環境か」について、肯定的回答が A 80%以上 B 60%以上 C 60%未満 | |
| | 後期評価 A | 86.1% |
| | ウ 職員アンケート「授業に集中できる教室環境か」について、肯定的回答が A 80%以上 B 60%以上 C 60%未満 | |
| | 後期評価 A | 91.6% |
| エ 「南浜中スタンダード10」を中心テーマとした職員研修を A 前・後期1回以上 B 前・後期どちらか1回 C 未実施 | | |
| 後期評価 A | 計画通り 前後期各1回実施 | |
| 今年度の振り返り | 職員研修で「南浜中スタンダード10」を次の10項目に設定しました。 1. 教室の前面をスッキリ 2. いす、机の脚にテニスボール 3. 机上は必要なものだけ 4. 忘れ物への対応 5. 指示の明瞭さ、簡潔さ、タイミング 6. 板書のチョークの色分け 7. 座席の工夫 8. 自己表現しやすい雰囲気づくり、認め合い 9. 課題・まとめ・振り返り 10. 宿題、家庭学習の確認（授業中に） これらの項目についての職員研修を行い、前期に評価が低かった NO.6 と NO.10 について具体的な取組方法を検討しました。また、生徒対象にこれらの項目についての意識調査をしました。それらをつきあわせて、「生徒にとってわかりやすい授業とは」「すべての生徒に優しい授業環境とは」について検討を加えてきました。その結果、職員の自己評価は前期より6ポイント向上し、91%になりました。今後も生徒の目線を大切に、視聴覚・情報備品についても整備を進め、研修を深めていきたいと思えます。 | |